The Osaka University Library Bulletin

大阪大学図書館報

Vol. 3 No. 3 May 1969

大学図書館の管理

——主として情報管理の立場から——

千　原　秀　昭

私の持論であるが，図書館の使命が図書の管理という消極的立場から脱して，むしろ情報管理あるいは情報処理の段階に進化すべき時期が既に来ていると考えられる。これは世界的な趨勢であって，わが国においてもその方向に歩んでゆくことは必然的である。同時に Librarian は脱皮して Documentalist になることが要請される。これは今までの図書館というもののイメージとは非常に異なる形態の機関であって，窮極的には，そこには殆んど図書が置いてなくて，電子計算機のコンソール（操作盤）だけがあるような別世界であるかもしれない。自然科学，工学，あるいは社会科学の分野において特にこれが予見されるわけであって，文学や芸術の分野では計算機化はかなり先のことであろうが，いずれは同じ道をたどるものと思われる。

はじめから結論みたいなものを書いてしまったが，これを必然であると受け入れていただくためには，それ相当の説明が必要であろう。現代は情報氾濫の時代であるといわれているが，私の専門の化学について見ると，約7.5年毎に年間の情報生産量が倍増している。これは殺人的速度であって，研究者が情報探索を自分でしていたのでは研究生活を放棄しなければならなくなる。この破局を救う道は情報処理の集中化方式しかないと思われるが，それも一大学あるいは一国単位の集中化では従来の方法と大差ないので，国際的規模で実施してはじめて有効な組織が可能になる。つまり信頼性の高い（dependable な）情報源は網羅的でなければならないからである。化学の分野での組織的な情報源として最大のものは Chemical Abstracts Service（CAS）であるが，現在その全力をあげて情報処理の機械化と取り組み，さらに既存の情報（正確には２次文献）を全部計算機磁気テープに入れる作業が進行している。この作業が完了するのにはあと数年を要するものと見られているが，その時期に合うように，一方ではＣＡＳと英国，日本，およびＯＥＣＤ加盟国との間の協議が行なわれ，米国のセンターとこれらの国に置く地域センターとの連携の方法が論議されている。つまり磁気テープのコピーを地域センターに置き，そこで情報検索を一手に引き受けられるようにしようというものである。将来は通信衛星を使って，米国のセンターと世界各地の図書館に置いた操作盤とを直接結ぶ方

式も検討されている。阪大図書館もいずれはこのシステムに加入し，本学の計算機を孫計算機として活用することを考えなければならないだろう。世界中がこのような情報組織でカバーされるまでは，印刷された図書という前近代的な情報形態もなお存続はするが次第にその重要性を失ってゆくことは自然のなりゆきである。そして図書館の貸出返却業務は縮少されて，そこには操作盤のオペレーターとキイパンチャーが座り，研究者は例えば申込書に「ナイロン用の染料」と記入すれば，直ちに適当な染料とその性質，製造法の文献の一覧表がもどって来，必要ならばその文献のコピーを取寄せることができる。

以上は，いわば情報管理のうちの書誌参照（bibliographic reference）サービスに関するものであるが，重要なことは，これをデータサービスにまで拡張することであって，これが完成しなければ実は図書館から図書はなくならないのである。この方向への研究も進行しているが，これは書誌参照よりもはるかに複雑なプロセスであって，一次刊行物の形態の革命が伴うものであろう。今すぐにそこまで行かなくても計算機化それ自身はもうすぐそこまで来ているので，我々は今すぐにでもその対処の仕方を考えておかなければならないと思われる。

このような図書館の変革は，実は重要な一段階をとび越えたことになるのである。その抜けた一段階というのは，現在大きな試験研究機関（ＮＡＳＡなど）や大企業で行なわれている“Documentalist の人力による書誌参照サービス”である。我々は２段階のジャンプを要求されるわけであって，道は険しいものと言わなければならない。

最後にお断りしておきたいのは，以上述べたことは研究を主眼とした情報管理に関してであって，教育面での図書館としては依然として図書の重要性は失われないであろう。この場合には，前号で坂本教授が指摘されているようにある程度の「分散化」が行なわれる方が能率的であろう。

（理学部教授・豊中地区運営委員長）

図書館業務機械化に関する合同研究集会—開催

昨夏以来，近畿地区国公立大学図書館協議会図書館業務機械化委員会の活動については，本報にその都度掲載してきたが，去る２月27日(木)，京都大学楽友会館で，近畿の委員会と国立大学図書館協議会図書館業務機械化調査研究班（北大，東北大，東大，名大，広大，九大，京大，阪大，神大）との合同研究集会が開かれ，文部省担当官をはじめ北海道から九州まで全国各大学図書館の部課長，掛長クラス40名が参集し，本学からは閲覧課長，受入掛長，運用第３掛長が出席し，次の各報告とそれに対する質疑から討議に入った。

東大図書館における業務機械化計画について	東　大　田辺整理課長
東北大図書館における業務機械化計画について	東北大　原田助教授
図書館業務へのタナックの導入について	神戸大　江崎(医)整理掛長
図書館業務へのフレクソライターの導入について	阪　大　浅野受入掛長
図書館業務のＰＣＳ化	京　大　坂東(数理)図書掛長

各報告者の報告と，それに関連した質疑を通じて，各館の事情は千差万別であることがわかった。すなわちＩＲを目標にコンピューター段階に入っているところと，日常業務の機械化計画にも手がつけられないところ，あるいは，図書館業務を一つのシステムとしてとらえ全体の

機械化を考えてゆこうという方法（トータル・システム）と，段階的に機械化を進め次第に拡大してゆこうとする方法（ステップ・バイ・ステップ・システム）とが混在している。

いづれにしても，資料の洪水―業務量の増大と増員抑制という矛盾の解決と，仕事の精度を高めるためには，遅かれ早かれ機械化しなければならない局面に立たされることは明らかであり，その場合，トータル・システムを採ろうが，ステップ・バイ・ステップ・システムを採ろうが，その前提として，業務の標準化と業務の集中化を徹底的にやらなければならないことで意見の一致をみた。また，機械化は組織の変更―事務分掌の再編成，分館の統合・再編成―をもたらすこと，各館それぞれの機械化は全国的規模，さらに国際的規模との関連で考えられなければならないことが確認された。

▶図書館の概況

（昭和44年5月1日現在）

区分	本館	中之島分館	工学部分館	薬学部分館	産研分館	理学部図書室	基礎工図書室	計
蔵書数	515,092	144,576	146,066	12,999	21,168	60,646	26,304	926,851
43年度受入数								
図書冊数	32,287	5,541	8,786	963	2,348	3,463	4,798	58,186
雑誌種類数	3,660	1,841	2,045	153	244	740	750	9,433
図書費支出額(千円)	92 259	24,584	40,712	5,942	7,258	18,378	22,636	211,769
施設								
建物面積（m²）	3,094	2,771 (268)	542	336	292	509	403	7,947
座席数	500	182 (18)	27	67	24	49	143	992
館員数	36	21	9	4	3	6	4	83
利用								
貸出冊数	53,571	40,014	2,144	18,864	1,850	15,804	19,446	151,693
貸出人数	39,701	29,024	1,952	15,671	—	—	—	86,348
相互貸借（依頼）	887	1,267	230	542	352	151	—	3,429
相互貸借（貸出）	465	2,078	379	69	226	954	—	4,171

＊ 中之島分館欄の（ ）内の数字は微研図書室の分を示した内数である。

理学部図書室―私費によるゼロックス複写サービス開始

理学部図書室では4月1日から，私費によるゼロックス複写サービスを開始した。従来，この制度がなかったので利用者に不便をかけていたが，今後は校費・私費の区別なく文献のゼロックス複写ができることになった。なお料金は1枚30円である。

教官寄贈図書

本　館

難　波　和（短大教授）

循環器病の治療計画	難波和，野村裕 共著	中外医学社	昭44

薬学分館

吉　岡　一　郎（薬　教授）

新有機化学要覧	安江政一，吉岡一郎 共著 朝比奈泰彦 監修	江南堂	昭44

理学部図書室

金　森　順　次　郎（理　教授）

磁　性（新物理学シリーズ7）	金森順次郎 著	培風館	昭44

内　山　竜　雄（理　教授）

量子力学演習 改訂版	内山竜雄，西山敏之 共編	共立出版	昭44

学生希望図書 —本館—

昭和44年1月から3月までの間にリクエストされた図書で，既に配架済である。

ORと計量経済学	Henri Theil 等著 関根智明 訳	好学社
人間改造の生理	W. Sargant 著 佐藤俊男 訳	みすず書房
チボー家の人々　全5巻	R. Martin Du Gard 著 山内義雄 訳	白水社
アジア歴史辞典　全10巻		平凡社
岩波講座基礎工学　全19巻	高橋秀俊 他編	岩波書店
情報科学講座　全63巻	北川敏男 他編	共立出版
大塚久雄著作集　全10巻		岩波書店
シンポジウム日本歴史　全20巻		学生社
数学原論　全31巻	Nicolas Bourbaki 著 前原昭二 等編	東京図書
ジュリスト判例百選シリーズ	我妻栄 編	有斐閣
中公新書　167冊		中央公論社
講談社ブルー・バックス　109冊		講談社

教養図書選択方法の改善 —本館—

従来，教養図書は，予算の３分の２を教養部教官の推せん図書にあて，その中での各教官の推せん額はその科目の受講者数を基礎にしていた。他方，残りの３分の１は，閲覧用の新聞・雑誌，学生希望図書，総記類（事典・辞書・年鑑・人名録・便覧・地図など）の購入にあててきた。しかしこの方式では，次のような欠陥が生じてきたので，１月30日開催の豊中地区運営委員会ならびに３月11日開催の図書館委員会に後述のとおりの改善案を提案し，その了承をえたので昭和44年度から実施することになった。

〔現行制度の欠陥〕

(1) 教養部教官の推せん額が受講者数を基準にしているため，利用度との間にギャップが生じる。（このことは前号２頁に詳述）

(2) 推せんが各教官に細分される結果，専門的・技術的なものが多くなり，基本的・共通的なものが脱けやすい。

(3) 図書館として当然備えつけるべき図書でも，教養部教官の推せんがなければ購入できない。

(4) 推せん時期をすぎて出版された図書は，来年度の推せん時期まで待たなければならない。

〔改　善　案〕

① 予算総額の50％を，従来どおり教養部教官の推せんによる指定図書的なものにあて，推せん額配分の基準には，受講者数のほかに利用度や他大学の実情なども考慮に入れる。また，前期の授業に間に合うよう推せん時期を早くする。

② 総額の30％は，教養図書的なものや閲覧用新聞・雑誌にあて，別に設ける教養図書選択委員会で選択する。このコテゴリーに属する予算で，①の推せんからもれたものなども購入する。

③ 残りの20％は，総記類（General Works）にあて，図書館で選択する。

以上の要項が実施されると，昨年度から実施された専門課程学生用の指定図書とあわせて，限られた予算が効率的に運用され，本館の蔵書が充実するのではないかと期待される。

会　　議

——近畿地区国公立大学図書館協議会業務機械化委員会—第６回——

44.3.28(金) 10.30.a.m.—3.00p.m. 於 京工繊大

①過去５回の委員会の成果を報告書にして近畿の協議会総会で報告する。 ②次の改組案を次回の協議会総会に提案する a.新年度は研究会的性格を強くし，希望があれば委員館をふやす。 b.新年度第１回は P.C.S. の実地見学を６月中旬以降実施する。

このほか，京都大学附属図書館の業務機械化委員会の活動経過報告があった。

――図書館委員会――

44.3.11(金)―4.00～5.00p.m.　於　本館小閲覧室

①　大阪大学附属図書館長選考基準　宮地館長の任期満了（6月6日付）に伴い，次期館長の選考について下記の通り館長選考基準の一部改正案が提案され，投票の結果改正せず11票，改正する6票，保留1票で改正せずと決定した。

改　　正　　票

第8条　現行：館長の任期は，3年とする。ただし重任を妨げない。を次のように改める。

（第1案）

館長の任期は3年とする。ただし再任を認めない。

（第2案）

館長の任期は3年とし，再任を妨げない。ただし引きつづき通算4年をこえることができない。

②次期館長候補者の推せん期日は4月15日～20日，館長選考日は5月2日又は6日にそれぞれ実施することにした。

昭和43年度専門課程指定図書受入状況調

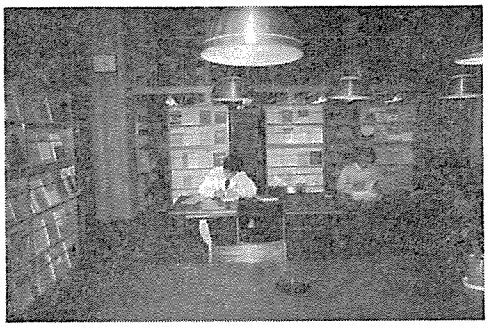
項目／学部	総数						平均					備考
	A 指定科目数	B 種類数	C 複本数	D 冊数	E 金額(円)	F 指定科目受講者数	G 一科目当り種類数 (B/A)	H 一種類当り複本数 (C/B)	I 一冊当り金額(円) (E/D)	J 一科目当り受講者数 (F/A)	K 受講者一人当り複本率 (H/J)	学生定員(人)
文学部	25	43	64	79	169,990	457	1.72	1.49	2,152	18.3	81/1000	120
法学部	27	44	134	369	458,770	3,443	1.63	3.05	1,243	127.5	24/1000	160
経済学部	17	42	142	175	281,180	2,182	2.47	3.38	1,607	128.4	26/1000	320
理学部	36	91	157	163	321,280	1,669	2.53	1.73	1,971	46.4	37/1000	380
医学部	22	40	40	77	329,220	2,676	1.82	1.00	4,276	121.6	8/1000	360
歯学部	14	28	28	30	173,070	914	2.00	1.00	5,769	65.3	15/1000	180
薬学部	34	34	150	150	203,670	2,503	1.00	4.41	1,358	73.7	11/1000	160
工学部	65	72	591	738	830,630	3,462	1.11	8.21	1,126	53.3	154/1000	1,310
基礎工学部	76	135	195	217	452,040	8,826	1.78	1.44	2,083	116.1	12/1000	620
総計(総平均)	316	529	1,501	1,998	3,219,850	26,134	(1.67)	(2.84)	(1,612)	(82.7)	(34/1000)	3,610

図書受入再開 ―本館―

受入掛では，年度末に殺到した図書の整理，会計検査，学部の封鎖などのため，本年度図書受入業務を一部を除いて中止していましたが，4月28日から，全面的に再開いたしております。永らく御迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

☆☆☆ 分館めぐり（5）☆☆☆

——微研図書室——



当図書室は堂島にあった旧微生物研究所本館3階におかれていたが，研究所の急激な発展と共に整備され，昭和35年中之島分館の発足とともにその分室となって今日に至っている。昭和42年11月研究所に伴って吹田キャンパスに移転した。現在の図書室は研究所本館の東北，別館の東側に位置を占める図書室・食堂棟の一階にあり，本館および別館とは図書室ロビーを通じて連絡している。室内は調度，絨毯，カーテンに至るまで配色採光に考慮がはらわれ落ち付いた雰囲気を作っており，ファンコイル方式による冷暖房が研究所全体に完備している。周囲は広い芝生と木立ち，および四季の花に囲まれ，スモッグに包まれた堂島時代に比べると新鮮な空気と太陽を満喫できる素晴らしい環境といえる。

図書室は総面積 267.65m² で，そのうち書庫 72m² (延 144m²)，閲覧室36m²，複写室 21m²，事務室 36m²，その他更衣室，ロビー等 102m² となっている。書庫は二層書架よりなり，利用者に開放されている。現在蔵書数は約一万冊で，それには吉田文庫，今村文庫，石神文庫等貴重な寄贈図書が含まれている。現在受入られている定期刊行物は，和雑誌約45種，洋雑誌約175種であり，新着の未製本雑誌は，閲覧室の雑誌架に納められている。

研究所の性格上蔵書は微生物学を中心によくまとまっているが，その反面他の領域の蔵書が少なく臨床部門の医員等は中之島分館から遠くなったことに不便を感じているようである。図書室は平日午前9時から午後7時まで，土曜日は午前9時から午後5時まで開館され，研究所員，大学院学生のほか近くの工学部や産研からも利用者が来室している。

最近の利用状況をみると，部内貸出は月約130冊，部外貸出は約10冊であり，借出しについては中之島分館から約100冊，その他の分館（室）から約10冊となっている。また中之島分館への複写依頼が約15件，同分館を通じて学外への依頼が約70件に達している。図書室の複写室は研究所内利用者に対して自由に開放されており，月平均ゼロックス約15,000枚，ミノルタファックス約2,000枚が複写されているが，これは最近雑誌の借出しが減少しているのと無関係ではないと思われる。また事務室にはＩＢＭ—ＭＴ72をはじめ6台のタイプライターを備付け，研究所員の論文作成に掛員が協力しており大変よろこばれている。

なお昭和33年以来 Bikken Journal が季刊で発行されているが編集事務局が事務室内におかれていて，広く国内外の研究機関と雑誌を交換している。現在こうして入手される定期行刊物は洋雑誌約150種，和雑誌約100種に達するが，人手不足のため，受入整理されているのはその内3分の1にもみたず，他は空しく倉庫に眠っているのは残念である。

最近10数年の蔵書数の推移をみると単行書，定期刊行物共に指数函数的に増加し，前年のそれに比して15乃至17%の増加を示しており，このまま進めば5年足らずで倍増してゆく計算になる。最近の情報量の増大を考慮にいれると現在僅か4～5名の陣容で今後，より利用しやすい図書室として発展させるためには，如何に努力すべきかとときどき考えこんでしまうこともある。

最後に，中之島分館をはじめ学内外の図書館（室）のご協力，ご援助をお願いしたい。

日　程

5月6日(火)　大阪大学図書館委員会（本館）
〃 7日(水)　第38回近畿地区国立大学図書館協議会（京都工芸繊維大学）
〃 15日(木)～19日(月)　第1回日米大学図書館会議（東京プリンスホテル）
〃 21日(水)　日米大学図書館会議関西セミナー（京都農協会館）
6月3日(火)～6日(金)　第16次国立大学図書館協議会総会（千葉大学）

人　事

職員の採用

本館	(受入掛)	山田善久	(4月16日付)
〃	(整理第一掛)	藤屋かほる	(4月1日付)
〃	(〃)	大村朋子	(〃)
〃	(理学部図書室)	風野勝子	(〃)
〃	(〃)	奥田美智代	(〃)
中之島分館	(整理第二掛)	池田好子	(〃)
基礎工学部	(理学部図書室)	安田賢次	(〃)

職員の退職

本館	(受入掛)	田中操	(3月31日付)
〃	(整理第一掛)	清水イネ子	(〃)
〃	(〃)	加納保博	(〃)
〃	(理学部図書室)	山本史子	(〃)
中之島分館	(整理第二掛)	瀬藤素美子	(〃)
基礎工学部	(理学部図書室)	森真一郎	(〃)

職員の配置換

理学部	(化学科)	渡辺紀子	(理学部図書室)

来訪者

3月26日(水)	沖田学	徳島大学蔵本分館事務主任
4月7日(月)	裏田武夫	東京大学助教授（図書館学）
〃 12日(土)	田辺広	〃 附属図書館整理課長
〃 〃	柴田寛三	東京農業大学図書館次長

大阪大学図書館報　Vol. 3 No. 3　昭和44年5月1日発行（隔月刊）　編集発行人　中野六郎
発行所　大阪大学附属図書館　豊中市待兼山町1の1（〒560）　☎豊中 068(56)1151 内線2126